

## 京都造形芸術大学 通信教育課程の現状

大学通信教育等における情報通信技術の活用に関する調査研究協力者会議  
2012年8月26日

1

## 京都造形芸術大学 通信教育部 で学ぶ学生の傾向

2

## 設置分野および学生数

京都造形芸術大学通信教育部芸術学部

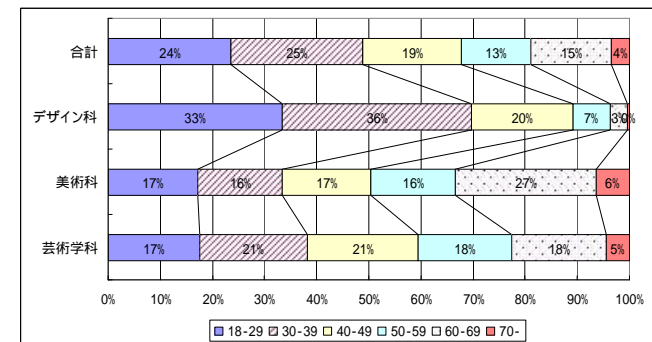
学科	コース	学生数
芸術学科	芸術学・歴史遺産・文芸・和の伝統文化	1,326
美術科	日本画・洋画・陶芸・染織・写真	1,801
デザイン科	情報デザイン・建築デザイン・ランドスケープデザイン・空間演出デザイン	2,010
芸術教養学科	平成25年度開設(届出設置申請中)	-
科目等履修	博物館学芸員資格取得課程・臨床美術士資格取得課程	192

京都造形芸術大学大学院芸術研究科[通信教育課程]

専攻	領域	分野	学生数
芸術環境専攻	芸術環境研究領域	芸術学・歴史遺産・文芸・芸術環境研究	50
	美術・工芸領域	日本画・洋画・陶芸・染織	69
	環境デザイン領域	建築デザイン・日本庭園	53

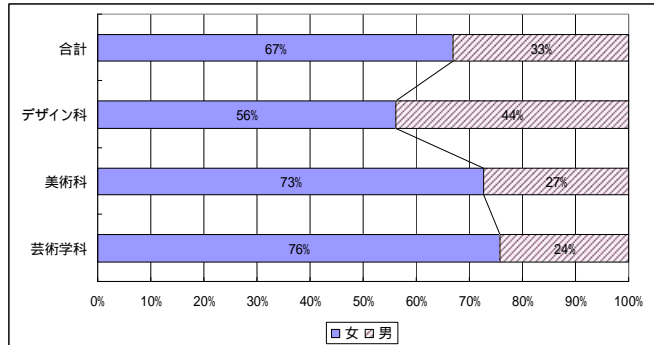
3

## 年齢構成



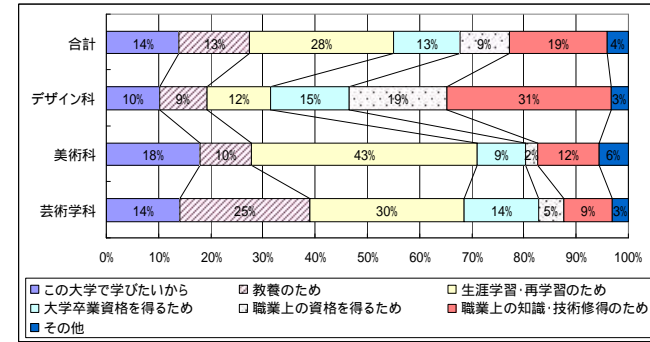
4

## 男女比



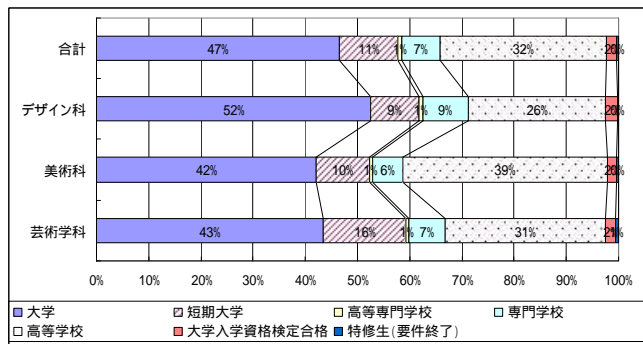
5

## 志望動機



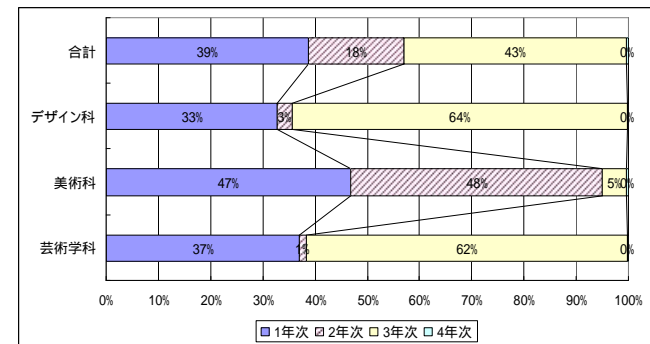
6

## 入学資格



7

## 入学形態



8

京都造形芸術大学で学ぶ傾向  
社会人学生の傾向

～ 美術科・生涯学習～

- 好きな美術の制作を生涯に渡って続けたい。
- 大学の正規の課程で、体系的に美術を学びたい。
- 好きな美術を、仲間と共に学び続けたい。

9

京都造形芸術大学で学ぶ傾向  
社会人学生の傾向

～ デザイン科・仕事に活かす～

- デザインの専門的なセンスや技術を身につけたい。
- 一級建築士受験資格などの資格取得をしたい。
- 学びの成果を仕事に活かしたい。

10

京都造形芸術大学で学ぶ傾向  
社会人学生の傾向

～ 芸術学科・教養を高める～

- 芸術史、文化史、芸術学などを体系的に学び、教養を高めたい。
- 好きな芸術について、体系的に学びたい。
- 学習成果を仕事に活かしたい学生と、生活を豊かにするために活かしたい学生。

11

学習への取組

授業形態による特徴と問題点

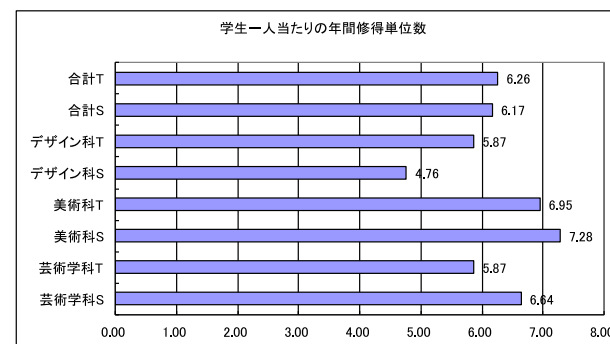
12

## 入学前の学習イメージ

- 平成20年度に、本学に資料を請求して入学に至らなかった「21,078人」にアンケート調査を実施。
- 入学を断念した理由に、「スクーリングの受講が日程や実施場所などによって困難である」と選択した請求者。 29.7%

13

## 実際の履修状況



14

## 履修の全体状況

- 年間のテキスト科目レポートおよび作品提出件数。  
レポート9,528件、 作品8,251件
- 年間のスクーリング科目開講数および延べ受講者数。  
920科目開講、 延べ24,273人受講

15

## 履修概況

- 一見、テキスト科目の履修も進んでいるように見える。
- しかし、卒業要件124単位の内、スクーリングの必要単位数は30単位であること。
- さらに、3年次編入学生については卒業要件62単位の内スクーリングの必要単位数は24単位であること。
- つまり、テキスト科目の履修が進んでいない。

16

## テキスト科目の学習方法

- シラバスを読み、教科書や参考図書を通じて自学自習。
- その後、2単位科目で3,200字以上のレポート作成。
- レポート合格の後、単位修得試験(本学の特徴である作品課題の提出の場合は単位修得試験不要)。

学習へ取り組むためのハードルが高い科目

17

## テキスト科目履修促進の取組

- 提出から返却までの期間を1ヶ月以内とし、全ての科目で実現。
- シラバスを丁寧に作成し、学習へ取り組みやすいようにする。
- 学習相談会を全国で年間42回開催。



18

## テキスト科目の教材開発1

- 初めてでも取り組みやすい教材の開発  
ドリル教材の開発  
DVD教材の開発



19

## テキスト科目の教材開発2



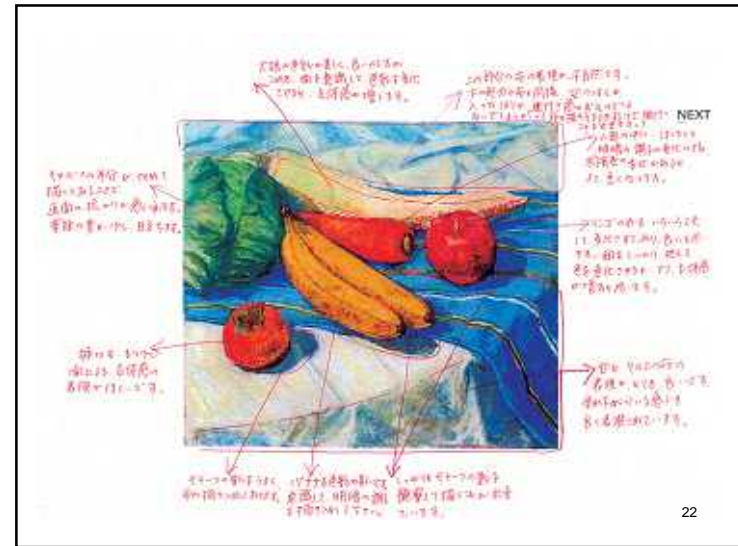
20

## テキスト科目添削指導の充実

- 丁寧な添削指導の実施。
- 履修履歴を活用した指導体制の充実。



21



22

## スクーリング科目の優れている点

- 年齢や社会的な立場は異なるものの、同じ目標に向かって学ぶ学生の集まり。
- 非常に熱心に受講。
- 学生同士、教員と学生とのコミュニケーションが充実している。



23

## スクーリング科目の構造上の問題点

- 短期集中で行うため、教員および学生共に身体的な負荷が大きい。
- 同様に、短期集中のため、特に講義科目の授業の設計が難しい。
- 移動や宿泊に費用がかかる。

24

## テキスト科目およびスクーリング科目 について

- それぞれ特徴があり、その授業形態に適した科目を設定できれば十分な教育効果を得ることが出来る。
- 一律に卒業要件のうち30単位をスクーリングで受講するルールの再検証が必要。
- 一方で、いずれの形態でも十分な教育効果を得ることが難しい授業科目も存在する。

25

## メディアを利用した授業

26

## メディア利用による授業への期待

- 従来のスクーリング科目、テキスト科目では実現が困難だった形態の授業の実施が可能となる。
- 特に社会人学生は、居住地が異なることから一箇所に定期的に通うことが困難であり、学習することの出来るスケジュールに個人差があることから、通信教育で学ぶ社会人学生には、大きなメリットがある。

27

## 本学が現在開発しているメディア 利用による授業

28











37



38

## メディア利用による授業のメリット

- IT技術の進歩により、高精細の動画配信が安価で可能となり、また直接会わなくても、双方向のコミュニケーションを高いレベルでとることが出来る。
- 学習から、「固定した場所」と「固定した時間」を開放することが出来る。

39

## メディア利用による授業の問題点

- 本人確認が困難である。  
本人確認については、どこまで厳密にやるか議論の分かれるところだと感じている。面接授業でも、例えば100人以上が受講する大講義の本人確認がどこまでできているのか？
- 学生及び教員に機器操作のリテラシーが必要であり、特に高齢者にとってハードルが高い。

40

社会人が生涯に渡り、  
それぞれのステージにおいて  
学び続けることの出来る  
大学を目指して

41

## 現状の課題

- 卒業要件に対する授業形態の弾力的な運用。
- メディア授業含め本人確認について、科目毎の厳密さは追求するものの、その特性に応じたガイドラインの作成。
- メディア利用の授業を含め、新しい授業形態の教育開発には著作権処理含め多大な費用がかかる。
- デジタル教材で利用が認められないものもあり、著作権法等の対応が求められる。

42